

水がきれいになる仕組み

— 上水と下水の話 —

— 茨木市の上水道について —

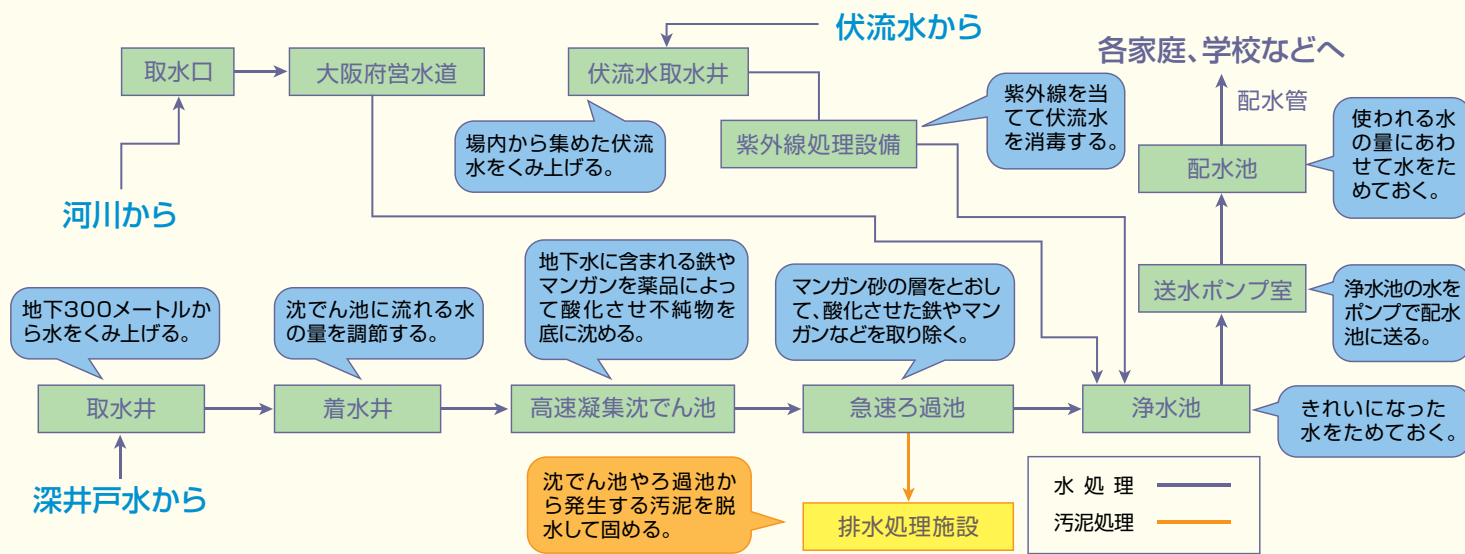
茨木地域で上水道の給水が開始されたのは、昭和4年（1929年）のことです。当時の利用者は約10,000人で、1日の給水量は約1,600㎥でした。その後、人口の増加や都市化の進展で段階的に給水区域を広げ、今ではほとんどの人が水道を使えるようになりました。

茨木市の水道水の水源は、大阪府営水道からの受水と地下水（深井戸水、伏流水）です。全体の約86%を府営水道で、残りを地下水でまかっています。府営水道からは、きれいに高度浄水処理された飲料水を受水していますが、地下水は鉄、マンガンなどの不純物が多く含まれているため、そのまま給水することはできません。十日市浄水場では、これらの地下水をきれいな飲み水にして、家庭や学校などに送っています。



上：十日市浄水場の中央監視室 下：十日市浄水場の玄関

— 水道の水ができるまで —



— 上水道の水質検査と管理について —

茨木市の水道部では、水道法に基づいた水質検査計画に沿って、安全確認のための水質検査を実施しています。水質検査項目や検査頻度、検査地点などの検査内容は事前に公表するとともに、実施した水質検査結果についても一般に公開しています。十日市浄水場では、24時間体制で水を監視しています。水の使用量は施設別にグラフで表示され、それに応じて流入する水の量を調節しています。1日の中で使用量が多くなるのは、朝夕の食事の支度時や夜お風呂に入る時間帯です。

蛇口をひねるといつでも出てくるきれいな水。しかし、水は

いっときたりとも欠かすことのできない大切なものです。この大切な水を無駄にすることがないように、上手に工夫して使しましょう。

茨木市水道部	〒567-0888 茨木市駅前4-7-55
水道に関する相談	
水量や料金、各種届け出に関すること(営業課)	620-1691
給水装置の工事、指定工事店に関すること(工務課)	620-1692
道路上などの水もれに関すること(工務課維持係)	622-2308
水質に関すること(浄水課)	643-6167

私たちに水はなくてはならない大切なものです。しかし、あまりにも身近にあるため、ついそのありがたさを忘れがちです。

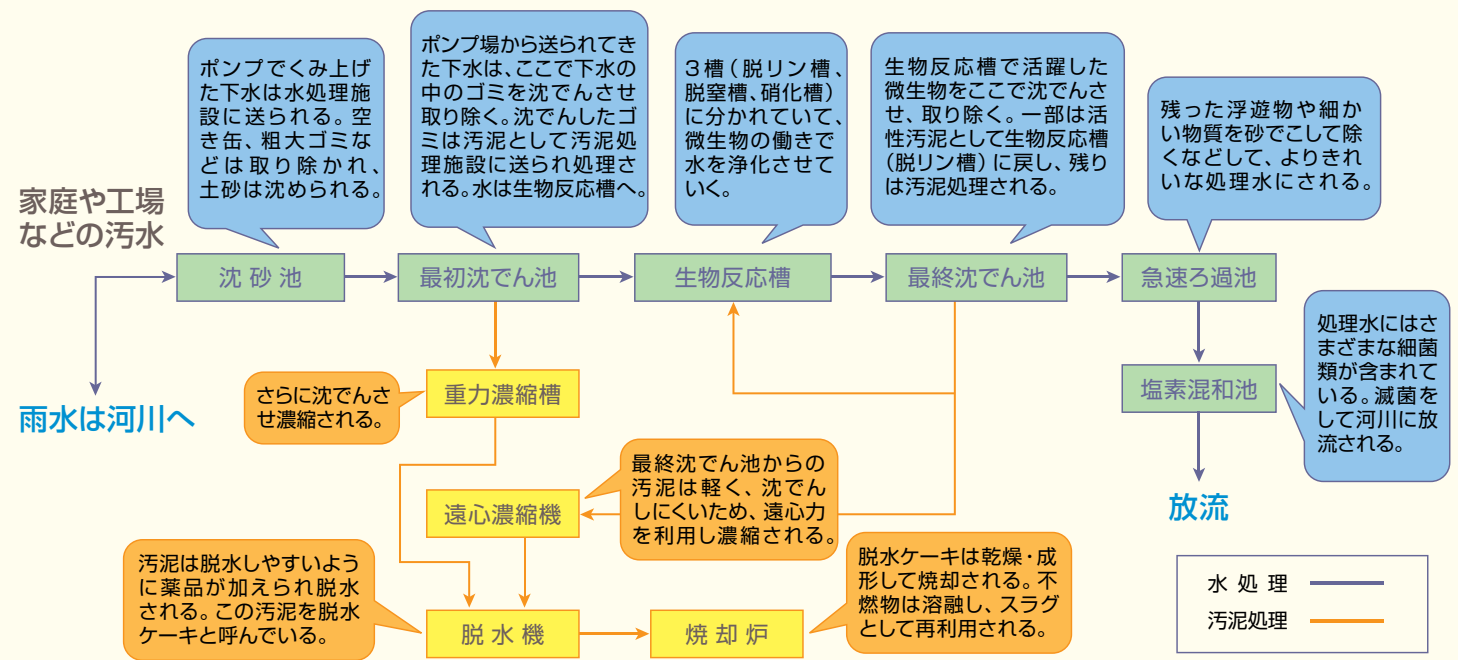
そこで、水がどのようにして私たちの所に届くのか、そして、私たちが使った後の水がどのようにしてきれいになり河川に戻されるのか、茨木市の水道部浄水課と建設部下水道課で話を伺ってきました。

— 茨木市の下水道について —

茨木市では、昭和30年代後半の急激な都市化によって、浸水や公共用水域での水質汚濁が進んだため、昭和37年（1962年）から公共下水道の整備を始めました。その結果、平成21年度末現在で、下水道の普及率は98.8%まで進んでいます。下水道の最終的な処理は、安威川流域下水道の区域（山間部を除く地域の大部分）を市内の宮島にある「中央水みらいセンター」（大阪府）で、淀川右岸流域下水道区域（茨木市の東側の一部の地域）を高槻市にある

「高槻水みらいセンター」（大阪府）で行っています。山間部については、特定環境保全公共下水道として、順次整備を進めています。水みらいセンターでの再生処理水は、高度処理をして親水事業などに再利用されます。親水事業とは、公共下水道の整備にあわせ、水路などを美しくよみがえらせて、市民の憩いや安らぎの場とする事業のことです。茨木市では島地区で、再生処理水を親水用水として、島ふれあい公園などで利用しています。

— 汚水がきれいになって河川などに戻るまで —



— 下水道に流す汚水について —

台所の流しには、細かい網などをつけてゴミが流れないようにしましょう。油は流さずに、固めたり紙でふきとりましょう。生ゴミなどをディスポーザーを使用して流すと、下水処理が困難になるので使わないようにしましょう。ただし、適正な管理が行われる場合の使用は認められています。

また、歩道や車道の排水口にゴミがたまると浸水の原因になりますので、ゴミのポイ捨てはやめましょう。

茨木市建設部 〒567-8505 茨木市駅前3-8-13
下水道課 620-1665



上：下 島ふれあい公園